

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000865
法人名	株式会社エレガンス福岡
事業所名	グループホーム 愛・あい 本社 (ユニット名 2 F )
所在地	福岡市中央区福浜2丁目1-5
自己評価作成日	平成23年8月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの職員とご入居様とは同じ家族の一員として、ご利用者様に寄り添い、共に過ごし、笑顔と明る  
い雰囲気づくりに取り組んでいます

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年9月7日

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25, 26, 27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念・方針を伝え、十分理解できるように説明している。毎日の朝礼で唱和したり、理念・方針を各ユニット毎に掲示し、職員・入居者ともに常に目にしながら、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区内の防災訓練・公民館活動・学園祭などの地域活動への参加や、日々の買物や散歩へ同行し、地域との関わりを絶やすことなく行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と職員の地域行事への参加や、日常の買い物や散歩を通じて、地域との交流があり、地域の行事にも積極的に参加して地域での支えあい活動の活性化につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催しており、各関係機関へも参加を呼びかけ、現状報告や意見交換等行っています。外部評価についても事前の報告やご家族へのアンケートの協力を仰ぎ、結果の報告をして改善等の話し合い夜サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の福祉担当者や社会福祉協議会と常に連絡を取り合い、地域包括支援センターへも実情の相談がいつでも行えるよう積極的に協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解は全職員が正しく理解しており、身体拘束ゼロに取り組んでいます。やむをえず身体拘束必要な場合、ご本人・ご家族へ説明を行い書面において同意を得ています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講した職員が、スタッフ会議等で報告、理解して虐待防止に努めています。また虐待があってはならないことは、全職員理解していることであり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会等に積極的に参加し、理解を深め、必要に応じて家族への説明を行っています。制度利用中のご入居様においては、関係機関と方向性等話し合い、全職員が把握し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に沿って内容毎に説明し理解・納得できているか確認をとりながら、不安や疑問点についても解かり易く説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居様の日々の様子、会話や表情を観察しご家族来所時や電話連絡の際ご様子をお伝えしご意見、ご要望等の確認を取り全職員で把握しています。玄関前にご意見箱を設置しています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて面談等の機会を設けて、意見や提案・悩み・要望等を聞いています。職員控え室に気づき箱を置いて、スタッフ会議等で検討しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取をこまめに行い、職場環境の改善に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用に当たっては、人事担当者や管理者で面接を行い、入社後は研修受講の促しをして意欲的に働けるような環境整備に努めています。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、校区内人権尊重講演会に参加、報告職員全体での勉強会を行い取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修会や勉強会等の受講を促しスキルアップを支援し、資格取得を応援して、質の高いケア努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での会議や研修等に参加し、職種を超えた交流を図ることにより様々な情報交換により、質の高いサービスに取り組んでいます。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学や体験入所等を通じてホームの雰囲気や職員、他の入居者に徐々に馴染んで頂けるように支援している。また、入居後は職員が寄り添い。ゆっくりと温かく寄り添いながら入居者の不安の軽減に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や見学時の情報収集においてご家族の思い等傾聴し受容するように努めています。またアセスメント表に細かく記入し、全職員で共有しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居様の日々の様子、会話や表情を観察しご家族来所時や電話連絡の際ご様子をお伝えしご意見、ご要望等の確認を取り全職員で把握しています。玄関前にご意見箱を設置しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のケアを通じて、入居者の言動や反応から精神的な支えを得ている。また、子育てや夫婦関係、洗濯の仕方など、様々な場面を通じて学んでいる。職員と入居者は、お互いにねぎらいの言葉をかけあうなど、お互いの存在を支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に気楽にいつでも訪問して頂き、ご本人とゆっくりした時間を過ごせる雰囲気をつくり、これまでの経過に配慮し、ご本人の生活情報を交換しながら方向性を同じく共に支援していく対等な関係をきずいています。また、毎月生活情報表を作成し、家族へとどけて情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開かれたホームづくりを勧め、面会等の制限や時間帯などの制約もなく、自由に面会で外出の規制も設けておらず、交流の継続を支援しております。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居様同士の交流には制限をせず自由に交流されています。ご入居様間の関係性にも配慮しながら、共に話し、共に助け合い、共に支えあってより良い関係づくりを支援しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培われた関係が継続出来る様、その後も面会や相談に応じ支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で全職員一丸となり関心を持ち、対話を持ち、いろいろな情報の把握によって、思いや、希望、望みなど共有し本人の立場になって関係者等と検討会を開催しています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居様のこれまでの生活歴を踏まえ、プライバシーに配慮しながら、希望に沿ったサービスの提供に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居様の行為や態度・言動などにさりげなく対応し、総合的に検討し記録することで、残存能力の発見維持に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が快適に暮らせるために、毎月のカンファレンスで検討し生活改善やケア・思いなど加味しながら、個別の計画見直しや計画の作成をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別に実践したケアの結果を経過記録に、気づきやケアの工夫などをケアカンファレンスへ記入して、全職員で情報を共有して検討しながら介護計画の見直しに活用しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなサービスの希望に応じて、法人内外の事業所の協力を得て柔軟に対応出来るよう取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの中だけで過ごさないよう、ご近所など出かけられるよう、地域の情報収集に努めご入居様の身体の状態を改善し、地域行事への参加など行えるよう支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	柔軟に対応していて、ホーム協力医やご家族やご本人様のかかりつけ医など、ご希望の医師による継続受診など希望の医療を受けられるよう支援しています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や法人内の訪問看護職員とも連携を図ることができ、お一人おひとりの状態の変化に対する判断や対処法を気軽に職員が相談できる体制が整っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する情報提供を行い入院中の面会等で状況の把握に努め、ご本人の負担軽減の為にご家族や医療関係者と連絡を図っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の健康管理において現状を伝えご本人・ご家族の意向を把握し安心・安全が確保できるか全職員で検討を重ね、関係機関との連携体制整備に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルが整備されており、適宜全職員での勉強会や検討会を開催し実践力を身につけています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルや緊急連絡網が整備され、年2回行事計画に避難訓練を予定し状況の変化を加え実施しています。法人全体で避難方法や経路の把握に努め、地域の防災訓練にも参加し協力体制に取り組んでいます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の尊厳と権利を守る為、個人の誇りやプライバシーの確保に法人全体で確認しあい改善に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の尊厳と権利を守る為、個人の誇りやプライバシーの確保に法人全体で確認しあい改善に努めている。希望や願いを感じとれるように表情や反応を日々観察し自分らしく納得のいく暮らしが送れるよう接しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に自分らしさを大切にして、急がせず、ご本人に沿ったペースで見守っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々気持ちよく過ごせるように好みや意向を確認しながら、个性的におしゃれが楽しめる様2ヶ月に一度は訪問理美容に来て頂いています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員に同行して買物に行き、簡単な下ごしらえや配引き・お盆拭き等一緒に行って頂き、食事は職員もご入居者様の間に入り食事を楽しみながら、さりげなくサポートしながら、穏やかな雰囲気と音楽を楽しみながら楽しい食事時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居様と職員の献立の提案を担当職員がバランスを考慮したメニューで個人の状態や嗜好品・摂取パターンに合わせ提供、水分・食事の摂取量は毎食事後に記録・把握しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ・誘導を行い、口腔内の状態の確認をし、必要性や希望があれば歯科の往診治療や受診の促しをしています。毎食後口腔ケアの際義歯の方は毎晩つけ置き洗浄をおこなっています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄チェック表の記録を参考に、排泄パターンを把握事前の声かけや誘導を行い支援しています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりのパターン把握と記録を行うことで、飲食物の提供を考慮し、状態に合わせて体操や腹部のマッサージ等で不快感の軽減と促しに努め、お薬でのコントロールが最小限になるよう取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の支度を整え、体調や希望に合わせて入浴の声かけを行いながら、拒否の方には工夫しながら足浴やシャワー浴など取り入れながら支援しています。入浴の際は体調やバイタルの測定値など考慮して見守っています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や睡眠パターンを考慮し、ご本人の睡眠のリズムを大切にしながら、安眠や休息出来る様支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関するミスが無いように処方されるお薬について全職員で把握し、心身の変化に配慮しながらご家族や医師・薬剤師と連絡を図っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活史やできる能力に合わせた活動へ参加でき、職員と共に役割を果たし充実した日々が送れる様支援しています。習い事や趣味・読書・歌の唱和・料理など楽しみづくりを支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買物に出る機会を日常的につくり、楽しく買物が出来るよう支援しています。散歩や季節毎の行事を計画し、ご家族や地域の方々とふれあう機会を設け外出しています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々一定の金額を個別に預かり(管理し)希望に応じ買物等同行し、ご家族と協議の上、ご本人がお金の所持が出来る様支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人の希望で連絡出来る様、居室でゆっくりお話し出来る様携帯電話など設置しておられる方もおられます。また季節の挨拶など出来る様、はがきなどの準備もあります。必要に応じて職員がお手伝いしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングや廊下にはソファや本棚が置かれ気の合ったご入居様同士でゆっくりとくつろいで過ごすことができ、ご入居様等の作品や写真・季節に合わせた飾り付け・お好みの音楽等お一人おひとりがその人らしく過ごせる工夫を行っています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはご入居様一人ひとり専用の席を設け他者は座らないようにしています。近隣には気の合ったご利用者様を配しています。ソファや窓のところに、ソファや椅子を配し、ストレスや不安を軽減出来る場所づくりをしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはご本人がずっと使用していた馴染みの家具や装飾品を持ち込まれ、他者を気にすることなく、リラックスして過ごせるよう工夫しています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下・洗面所・トイレ・浴室などは十分な幅と広さがあり車椅子で移動しても十分です、各所に手すりも取り付けられ、廊下には絵や文字で張り紙掲示して、場所がわかるようにしています。		